

確かな学びと豊かな心・健やかな体をはぐくむ 学校力向上プラン【学校評価書】

#### 中学校区におけるめざす子ども

『鳳校区のめざす子ども像』：思いやりをもち、自分も他の人も大切にし、認め合える。

堺市立鳳小学校

校長 山内 博士

大項 中項 小項	具体目標	達成状況(年度末)				学校関係者評価			
		評価基準 (評価のもの)	評価方法	評価時期	達成確認 (2学年中)				
授業改善  琪か な す び	・問題解決学習による考える育成	●子どもと子どもの対話を増やす授業づくりに取り組む。 生活・総合を軸にしたカリキュラムを充実させる。	・校内授業研究、校内研修会での討議・児童アンケートの下記項目で肯定的回答が80%を上回る。 「授業で、自分の思いや考えを伝えていたり」「先生や友だちの話をしっかりと聞いている」「生活・総合の勉強が好きだ。」	・協議・児童アンケート	年度末	○ ○ ○	・1学期に作成した低・中・高の「対話でめざす子ども像」に近づくために、各学年で計画しながら話し合う機会を授業中に多く取り入れることができた。 ・各教科の年間指導計画を参考にしながら総合を各教科を横断するカリキュラムづくりを行うことができた。 聞く、生活・総合が好きだという項目においては目標を達成することができたが、伝えることに課題が見られる。ペア、グループ、全体など話し合う時間を大切に授業を進めていきたい。	◎ ○	
	・ICTの活用を推進する	★授業において、児童用パソコンを活用する。	学習で児童がパソコンを週2回以上利用する。	・児童アンケート	年度末	△	・低学年においても児童用パソコンを利用する機会が増えている。	○	
	・対話力の育成	コミュニケーショントレーニングを実施する。	児童アンケートの下記項目で肯定的回答が80%を上回る。「コミュニケーショントレーニングで話したり、聞いたりすることに楽しんで組むことができた。」	・児童アンケート	年度末	○	・学期に1本以上どの学年もコミュニケーションを取り組むことができた。 ・年間を通して、各学期に1本以上のコミュニケーショントレーニングの取り組みを継続して行うことができた。 ・「コミュニケーショントレーニングで話したり、聞いたりすることに楽しんで取り組むことができた。」 ○ 1学期85.2% 2学期76.2% ○ 1学期は80%を上回ったが、2学期は80%を下回った。来年度も継続して取り組んでいきたい。	○	
基礎学力  重か な 心 錯やかな体	・互いを認め合う時間づくり	●互いを認め合いながら時間をつくり	児童アンケートの「あいさつ」に係わる項目で肯定的回答が90%を上回る。	・児童アンケート	年度末	○	・あいさつの取り組みを通して、自ら進んであいさつができる児童は増えているように感じる。しかし、自発的に「おはよう」「さようなら」以外の種類のあいさつをする児童は少ないのが現状である。「ありがとう」などのあいさつの種類を増やすような取り組みや指導をしていく必要がある。	○	
	学校いじめ防止基本方針や人権教育計画をともに互いを認め合う集団作りに取り組む。	児童アンケートの下記項目で肯定的回答が90%を上回る。「人が困っているときは進んで助けている」	児童アンケートの下記項目で肯定的回答が90%を上回る。	・児童アンケート	年度末	○	・児童アンケートの「人が困っているときは進んで助けている」の肯定的回答率は、1学期87.3%、2学期87.6%だった。クラスや学年の取り組みを中心に、今後も互いを認め合う集団作りに取り組んでいきたい。	○	
	風人権の日を通しての児童同士のつながりを充実させる。	児童アンケートの下記項目で肯定的回答が80%を上回る。「つながりWSの目標を意識し、過ごすことができた。」	児童アンケートの下記項目で肯定的回答が80%を上回る。「つながりWSではどのくらい目標を達成できたのかを目に見える形で残したり、学期ごとに友だちからのメッセージを受け取りながら進めていくことができた。」	・児童アンケート	年度末	○	・風人権の日の学習後に各クラスでテーマに沿った目標を立て、実践していくことができた。つながりWSではどのくらい目標を達成できたのかを目に見える形で残したり、学期ごとに友だちからのメッセージを受け取りながら進めていくことができた。	○	
体育運動  体 体 向 上 、 健 康	運動に親しませることで体力の向上へ、楽しむ・学ぶ生活を営む態度を育てる。	●体育朝礼「なわとび検定」を通して、体育授業時・休み時間・放課後・休日等に児童自身が「運動をしよう！」、「もっと運動がしたい！！」という意欲につなげれる。	・6月と12月の新体力テストの反復操縦び(後敏性)の記録と比較・休み時間のなわとびタイムの参加状況	・新体力テスト「反復操縦び」・児童観察	随時 年度末	○	・2学期に2回、教育課程内において、奇數学年と偶数学年に分けた体育集会を実施した。 それぞれに代表教員が示範を含めた全体指導を行い、児童の意欲と技能の向上を図った。 また、担当教員が持ち回りにて週に1度、登校後の始業前時間を使って、運動場で「なわとび検定」の音楽を流すことにより、児童の体力向上の機会を確保し、より一層の意欲の向上に努めた。	3学期、左記の体育集会の3回目を実施した。始業前時間の取り組みは年度末まで継続し、多くの児童の参加が見られた。 反復横跳び(敏捷性)の記録において、全体的な伸びが見られた。 身体の発達を考慮すると、記録の伸びは当然であるとも言える。様々な要素が絡んでいる体力テストの結果のみで判断するのは早計であるが、本取り組みは体力の向上に一定の成果を示したと考えている。 なわとびは、様々な要素からなる体力をバランスよく向上させることができる。体育の時間に取り入れる学級も多数あり、また、休み時間にも取り組みやすい運動である。継続していくことが大切なので、次年度も本取り組みを提案したい。	○
	個に応じた支援体制づくり	子ども支援委員会で支援体制・支援方法を検討、工夫する。	支援体制・支援方法を計画通りに進めている。	・自己診断	年度末	○	・子ども支援委員会を定期的に開催することで計画通りに進んでいる。 ・学級で使えるUDについて写真や使用の仕方の説明を行い共通理解を図った。	・特別支援教育コーディネータを中心に、子ども支援委員会で個に応じた支援体制や支援方法を共有・検討することができた。	○
	学校環境のUD化	学習環境の整備を行う	・実績報告	年度末	○	・学年ごとに統一されたUD化により、子どもたちにとってよりわかりやすい教室環境が整った。	・以前と比べ、廊下に物が少なくなり、片付いているを感じる。これからも子どもたちが生活しやすい学習環境の整備に取り組んでいってほしい。	○	
校長より(年度末)	学校職員で「対話、あいさつ、なかま」をキーワードに、自ら学び、心豊かにともに育つ児童の育成に取り組んできた。 確かな学びでは、「対話」に重点を置きながら、「聞き上げ」「話し上手」な児童となるよう、また、児童が主体的・対話的な学びができるよう授業で実践してきた。今後、ICTを効果的に活用しながら、個別最適な学び・児童自らが学びを進めていく「学びのコンパス」の実現に向け取り組んでいく。R-PDCAサイクルを効果的に機能させながら、児童の「知・徳・体」をバランスよく育てていきたいと考えている。 小学校のすべての子どもにとって居場所や出番のある学校となるよう取り組んでいきたい。	学校関係者評価者から(年度末)	・続続したあいさつの取り組みで、「自分から」「大きな声で」あいさつができる子どもが定着してきた。引き続き下校の安全指導も含め指導をしてほしい。 ICTの活用について、児童がソリードとして使いこなしているを感じる。並行して、筆頭を持ってノートなどに自分で書いて考えている指導も大切にしてほしい。 メティアリテラシーについて、児童だけではなく、保護者にもしっかりと啓発をしてほしい。 授業中でも休み時間も、子どもたちがいきいきと活動している様子がみられた。	○					